

来週の『売り物』記事はこれ



2015年12月18日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

「街角のホスピス 終末期医療の現場から」

20日(日)



幸せに人生の幕を閉じるとは——。房総半島の南端に近い千葉県南房総市の「花の谷クリニック」は、末期がんや難病、認知症などの患者が入院できるホスピスを備えた全国でも珍しい診療所です。定員の14床はいつも満員。月に4、5人がここで息を引き取りますが、「最期まで生きていたいと思う気持ちは人間として当たり前のこと」。伊藤真美院長(58)はホスピスを「どんな状況になっても、それを抱えて生きることを支える場所」と言います。さらに、緩和ケアは終末期の患者だけでなく、がんなどの重い病気を背負った時から必要とされるものにとらえています。街角にある小さな診療所の取り組みから医療のあるべき姿を考えました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

これって見返り？

法人税減税と政治献金の危うい関係を考える

夕刊2面特集ワイド 21日(月)



来年度の税制改正大綱に法人税の減税が盛り込まれました。経団連は歓迎のコメントを出しましたが、大企業にとって有利な政策ですから当然でしょう。ただ、気になる点もあります。経団連は2009年10月から政治献金の呼びかけを中止していましたが、昨年9月に再開しているからです。減税は献金の見返りなのでしょうか。そもそも、税金を原資とする政党交付金が1995年に導入された時、企業団体献金は廃止を含めた見直しをするはずでしたが……。政治献金のあり方を改めて考えました。

別所哲也のスマートトーク おんなのしんぶん 21日(月)

隔月で掲載している対談コーナー「別所哲也のスマートトーク」。今回のゲストは、阿川佐和子さん=写真=です。エッセイストとして、ベストセラーを世に送る一方、テレビでは番組の進行役を長く務めるなどマルチに活躍する阿川さん。週刊誌の対談コーナーのホスト役でもあることから、別所さんとの会話はとても弾みました。厳しかったという作家の故阿川弘之さんとの思い出や音楽、女性活躍にまつわる話など話題も多岐に渡りました。写真特集、対談の全文書き起こしをニュースサイトにアップする予定です。ご期待ください！



ストレス低減法

くらしナビA面 25日(金)



人間関係の悩みや仕事の過重などでストレスを抱える人は多くなっています。過剰なストレスは心身の健康のバランスを崩し、うつ病などのメンタルヘルス不調をもたらします。企業には今月から、従業員へのストレスチェックが義務化され、対策を迫られています。しかし、ストレス要因をなくすのは難しいものです。個人で取り組めるストレス低減法を探りました。

日本人の平均寿命は男性が80・50歳、女性が86・83歳(2014年、厚生労働省調べ)。しかし健康的で自立した生活を送ることができる「健康寿命」だと、男性は約9年、女性は約13年短くなります。健康寿命を延ばすには、何を心掛けたら良いのでしょうか。栄養と運動を中心に、手軽にできる対策について専門家に教えていただきました。



これぞ、「諸行無常」……

地方から寺院が消える！

オピニオン面 [そこが聞きたい] 23日(水)



人口の都市部へ集中、押し寄せる高齢化の波は、地方寺院の檀家(だんか)制度を脅かしています。現在、日本にある寺院は約7万7000で、そのうち約2万は住職のいない無住寺。今後、その傾向はますます強まり、2040年には今ある寺院の3~4割がなくなると指摘されています。「寺院消滅」の危機を訴える現職の浄土宗僧侶の鵜飼秀徳さん(41)を直撃しました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

「死と生」の大切さ

朝刊文化面 26日(土)

批評家の若松英輔さん=写真=が各界の識者で行う対談「理想のかたち」は、自殺対策の活動をしているNPO法人「ライフリンク」代表の清水康之さんが相手です。元内閣府参与で関連法の整備にも関係する清水さんが、自殺問題の現状を解説。法律や制度に基づく具体的な自殺防止策にとどまらず、死別の瞬間の大切さや生きることのかげがえなさについても語り合います。

